



公共交通について

【質問】登下校時に利用する公共交通機関がバスしかない上に本数が少なく、乗り換えや待ち時間が長い。また、乗り換えや自然災害時のバス運行の情報をホームページ等で分かりやすく表示して欲しい。

【答弁】

○現在策定中の「市地域公共交通網形成計画」において、新たな利用者の掘り起こしや、準を定めて設置している。



中心市街地について

【質問】リナシティかやの周辺はシャッター街と化したお店が多い。古い建物で台風時など危険であり、営業している店舗の近くに駐車場が無く、気軽に立ち寄りづらい。未利用の店舗の整備、新しい店舗の誘致、無料駐車場を作るなどの考えはないか。

【答弁】

○市では、新しく出店される人に店舗改装費の一部補助を行う空き店舗活用支援事業を行っている。

○この成果として、中心市街地にこだわりのパン屋や地元食材を活用したレストランなどが開業された。

運行ルートやダイヤの見直しなどを検討しており、通学時の負担が軽減できるよう関係機関等と協議したい。

○インターネットによる情報提供については、「九州のバス時刻表」や「九州乗り物info.com」で運行状況などを表示しており、市ホームページも当サイトにリンクしている。今後は当サイトの周知とともに、バスの運行状況をホームページに掲載するなど、情報提供に取り組みたい。



通学路の安全確保について

【質問】市内には、デコボコした道や歩道の幅が狭く、ガードレールの無い道など、危険な道が多くある。例えば、寿小学校の通学路で保育園近くの道は、交通量が多く、安全が保たれていないため、子どもたちが安全に登下校できるようにしてほしい。

【答弁】

○市では、学校関係者や警察、交通安全協会などと通学路の合同点検を行い、必要な整備を行う。

○商業施設の誘致も大事だが、まずは地元で出店を考えている人が中央商店街に出店しやすい取り組みを行っている。

○提案の未利用店舗における無料駐車場整備については、土地使費用や維持管理経費、土地所有者や建物所有者の意向も考慮する必要があるため、商店街の皆さんと意見交換しながら魅力的な街づくりに向けていきたい。



市のPRについて

【質問】鹿屋市には歴史的な建造物が多くあるが旅行者はそれほど多くない。「永遠の0」の舞台となり戦時中の滑走路が残っているにもかかわらず、訪れる人が少ないのは残念である。県外の友人のみならず市内や県内の友人も、特攻の資料を知りたいと言われることが多い。県内外の多くの人に鹿屋市を知ってもらい、訪れてもらえよう、多方面からのPRを強化してはどうか。

【答弁】

○本市には豚やカンパチをはじめ、おいしいものが沢山あり、

を行つている。

○寿小学校の周辺の道路は多くの児童等が通学路として利用しているため、緑色のライン歩道と合わせて、自動車のスピードを30km以下に制限し歩行者を最優先とする「ゾーン30」を区域設定した。

○市内にある歩道の狭いところやデコボコのある通学路については、引き続き、子どもたちの目線に立った整備に取り組みたい。



各高校の交流について

【質問】本市には6つの高校があるが、互いに交流する機会がほとんど無い。高校同士で競い合う機会があればいいかと活気が出てくるのではないかと。例えば、各校のクラスマッチの優勝チーム同士で鹿屋市ナインバーフンを決めたり、弁論等で競ったり、年に1回でもそのような場を作つていただけませんか。

【答弁】

○高校生の交流会については、生徒会等の活動の一環として高校生の方々が連携協力して交流していくことが望ましい。

かのやばら園や多くの戦跡もあり、これらの魅力を活かして情報発信をしていくことが重要である。

○観光面では戦跡ツアー、かのやばら園でのイベント等の実施、食では「豚ばら丼」や「カンパチdeリソット」の販売促進を行うとともに、松竹芸能タレント「平田あかり」による様々な情報発信に取り組んでいる。今後は高校生の方々にも協力いただき、本市のPRに努めていきたい。



鹿屋市の活性化について

【質問】リナシティかやは商店街の活性化を目的に作られたと聞いた。また、瀬戸町から西原1丁目にかけて閉店している店舗を多く見かけて、郊外型店舗の誘致など市の活性化に向けた計画は検討しているか。

【答弁】

○中心市街地では、空き店舗を減らす取り組みとして、未利用の店舗に出店する場合には、改装費用等を一部助成する事業や市民参加型の市民協働ショップ「KITAYA SARUGA」

い。その際、鹿屋市、そして教育委員会として、できる限りの後押しをしたい。

○高校生の皆さんが互いの交流を深め、切磋琢磨していく中で心身ともに大きく成長させることを期待する。



道路の側溝の整備について

【質問】通学路にある側溝が雨の日になると水があふれて辺り一面が水浸しになる。注意深く歩いても靴の中まで濡れることや、激しい流れになつていたりともあり、小学生などにとっては大変危険である。

例えば、札元のゲオ鹿屋店から鹿屋東中学校に向かう通りの十字路や信号前等がひどい状況である。これらの道路の側溝を整備して欲しい。

【答弁】

○市では、雨水排水対策を進めるため、平成26年度に「市総合雨水排水対策事業計画」を策定し、5年間で23か所の改善を行うこととしている。

○本計画に基づき、札元地区の冠水箇所の軽減など、5か所

をオープンする等の取り組みを行つている。

○郊外型の店舗誘致は、消費者にとっては選択肢が広がるというメリットもあるが、店舗側としては、一定の人口規模などの出店条件もある。また、市内の各商店に与える影響も考慮しながら、総合的かつ慎重に判断しなければならぬ課題と考えている。

若年者の雇用について



【質問】市外への進学や、第一次産業の後継者不足など、鹿屋市の若年層の人口が流出し、高齢者の人口比増大が進んでいる。高校卒業者が市内に残れる。

【答弁】

○高校卒業後も鹿屋に残つて頑張りたいという人、いつかは鹿屋に帰つて頑張りたいという人、それぞれの思いに応えるべく、魅力ある働く場をつくるための取り組みを進めていきたい。

○また、高校生と市内の企業を結び付ける企業見学会も活用してほしいと考えている。

の改善を行つたところである。

○今年度は、西原台小学校や上小原中学校付近及び鹿屋中央高校付近や串良商業高校付近の整備など、12か所を予定しており、ゲオ鹿屋店から鹿屋東中学校に向かう通学路の冠水についても、周辺の道路の排水路を設置する工事を進めており、早期改善を図っていきたい。



街路灯の設置について

【質問】パイパス等には街路灯が完備されているが、奥まった住宅街や田畑の広がる人通りの少ない通りにはあまり街路灯が設置されていない。中高生は部活動等で朝夕の暗い時間に通学する生徒が多い。若年層や高齢者は暗い道は通行しにくく、事件や事故の危険性も高くなる。安心して生活できるよう街路灯の設置場所を増やせないか。

【答弁】

また、市外への進学者が地元に戻つてきやすい街づくりの対策についてどのように考えているか。

○高校卒業後や大学へ進学した後の就職の場を作ることは若年層の市外流出を防ぐ、最も効果的な方策であるため、企業誘致や店舗改装等に係る経費への支援、農林水産業においては知名度と付加価値の高い商品づくりに努めている。

議長の務めを終えて



今回、議長という大きな役を頂けた事で自分にとって大きな財産になりました。議長という責任重大な役割で、非常に緊張しましたが、周囲の皆さんのサポートの中で議会を無事に進めることができました。

これからの人生の糧にして、この経験を生かしていこうと思います。参加された各校の皆さん、活発な質疑応答ありがとうございました。お疲れ様でした。